

ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師
加瀬 政美

【第4号】 小・中学校向けバージョン

★教室で、ALT（外国語を母国語とする外国語指導助手）が、英語を流暢に話すと「あっ？という顔をする児童がいます。そんなとき、学級担任か専科の先生の出番です。今回は、「音声について基本的なことを知っておこう」です。（3つの基本）

ALTが自然に話すとき、異なった音に聞こえる場合がある。児童生徒が戸惑っていないかどうか確認する必要があります。その時の指導者の基本的な知識を紹介します。

1 脱落 (elision)

・速く話されたり、読まれたりすると音が落ちることがあります。これを elision と呼びます。

例) and は「アン」のように聞こえます。What time は、「ワッ タイム」
Good morning は、「グッ モーニング」

2 連結 (linking / Liaison)

・単語が2つ並ぶとき、最初の語末の子音と次の語頭の母音がつながる現象です。

例) When is your birthday? 「ウエン イズ」 → 「ウエニイズ」
Stand up. 「スタンド アップ」 → 「スタンダップ」

3 同化 (assimilation)

・2つの音が互いに影響を及ぼしあって音が変わってしまう現象です。

例) What would you like? /d/ 「ドウ」 + /ju:/ 「ユー」 → 「ヂュー」
Nice to meet you. /mi:t/ 「ミート」 + /ju:/ 「ユー」 → 「ミーチャー」

この音の変化は、小学校学習指導要領の高学年の外国語で扱う「英語の特徴やきまりに関する事項」に位置付けられています。指導する際には、明示的に教えるのではなく、学習者が何度も何度も発話する中で、自然と習得できるように仕組むことが大切です。ただ、指導者としてこれらの基本を知っていることは大切なことです。学習者が、自然と発話の中で身に付き、発達段階の中で「明示的に教えても大丈夫かな？」と判断した時、「実はね～」と教えると、子どもたちは、「なるほど、そうなんだ～」と笑顔になり、言語の習得が加速されます。

中学生においては、新出単語を発音する際、決して単独単語で練習するのではなく、複数単語で学ぶ方法を工夫することで、リスニング力向上に有効となります。